保存版

鳥獣被害対策の手引き

鳥獣被害に強い地域をつくる5つのステップ

ステップ
❶ 被害対策の基本を知る

野生鳥獣が何を食べ、どう暮らしているか。どうすれば被害を抑えられるのか。まずは基本を知り、どんな場所に野生鳥獣が定着するのか、その要因を学びましょう。

ステップ
❷ 地域の実態を知る！

ステップ❶の学びを踏まえ、自分たちの地域を確認します。

鳥獣被害対策の有無／野生鳥獣にとって安全な休息場の有無／野生鳥獣のエサの有無／野生鳥獣による被害の状況／野生鳥獣の目撃情報

見つけたことを地図に描き込んで共有しましょう。

ステップ
❸ 対策手法の検討、選択！

地域住民主体で対策を検討。対策における役割を明確化し、それぞれができることを行動に移しましょう。

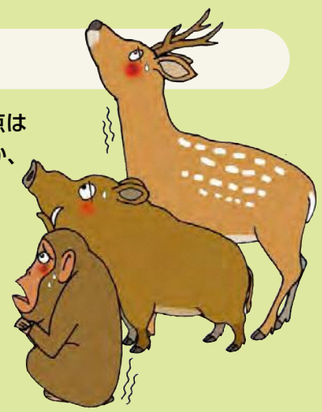
- 田畑や所有地を守る（個人の役割）
- 生活環境を守る（地域の役割）
- 地域の将来を守る（行政の役割）

ステップ
❹ 対策の実施！

まず、やってみることがとても大切。一つの対策が進むと、そこから次の対策につながります。

ステップ
❺ 効果の検証！

良い点は継続し、問題点は改善。効果があったのか、失敗したのはなぜかを検証します。



青森県

あなたの地域は大丈夫？

地域で進む「餌付け」と「人慣れ」

地域に野生鳥獣がやってくるのはエサがあるからです。農作物は野生鳥獣のおいしいエサ。

農作物被害は「餌付け」の一部と言えます。さらに「人慣れ」が進むことも餌付けの原因となります。



たまたま集落に行ったら、危ない目にあわずにエサを食べることができた。もう一度行ったら、今度も危ない目にあわずにエサにありつけた。

➡ **「ここはいつ行ってもエサを食べられる場所」**と学習します。

「餌付け」していませんか？

被害が起きるのは地域内に当事者としての自覚がないまま、下の図のような「餌付け」をしている…実態があるからです。こうしたエサをなくすのが、鳥獣被害対策の第一歩です。

「人慣れ」させていませんか？

野生鳥獣のエサとなるものが地域内に放置され、追い払いもしなければ、その結果として人慣れにつながり、餌付けをしたのと同じことになります。





食性　植物食を中心とした雑食性で、季節に応じてさまざまな植物を採食します。魚、昆虫、動物の死体も食べます。秋のブナの実等の豊凶がその後の出没回数に影響します。

行動　繁殖期にオスとメスが行動を共にしていたり、母グマが子グマを連れている場合などを除き、基本的に単独で行動します。ブナの実等の実りが悪い年は、大きく行動範囲を拡大させます。

特徴　時速40kmほどで走ることができ、木登りも得意です。視力は弱い一方、嗅覚は犬以上に発達しています。現在は植物食寄りの雑食性ですが、肉食の名残で大きな犬歯を持っています。

対策　春や秋に山菜・キノコ採りなどで山や川沿いに入る際は、クマとの遭遇に注意しましょう。
秋は冬眠前のエサを求めてクマの行動範囲が広がります。特にブナの実等が不作の年は人里に出やすく、遭遇する可能性が高まります。
晩夏から秋の農作物の収穫期も、クマが農地に現れやすい時期です。農作物の味を覚えさせないことが重要です。カキ・クリ・クルミなどの放任果樹や、畑に残った収穫残さはクマを誘引します。特にカキは誘引力が強いため、伐採などの対策を行いましょう。また、物置などへの侵入を防ぐため施錠を徹底し、農作物や食品、飼料を放置しないことも大切です。

このパンフレットに関するお問い合わせは

青森県農林水産部農林水産政策課
産業技術・防疫グループ
〒030-8570　青森県青森市長島１丁目1-1
電話：017-734-9702

制作・発行
一般社団法人　農山漁村文化協会
〒335-0022　埼玉県戸田市上戸田2-2-2
電話：048-233-9374



イノシシ

後ろの副蹄は
つかないことがある



ニホンジカ

痕跡が残るのは
2本だけ



ニホンザル

親指が短いため
4本に見えることもある



カラス

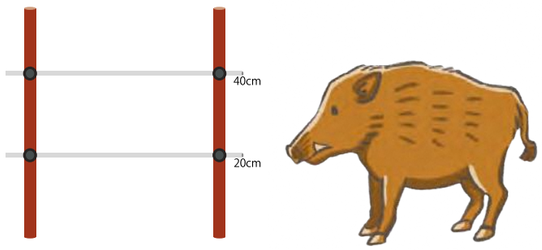
ハシボソガラス

食性 雑食性で植物の葉、新芽、根や農作物のほか、昆虫やミミズ、ネズミなどの小動物もエサにします。

行動 本来は昼行性ですが、人の少ない夜間にも活発に活動します。落葉広葉樹林や竹林、耕作放棄地など、食料が豊富にあり、身を潜められる場所を好みます。

特徴 警戒心が強く臆病で、通り慣れた道を往復して移動します。環境に慣れると大胆な行動をとることもあります。
侵入に成功した仲間の行動をまねるなど、高い学習能力を持っています。
鼻は敏感で周囲の臭いや感触を探る際に使うほか、押し上げる力は70kgにもなり、地面を掘ることもできます。

対策 イノシシ用の電気柵の場合、柵線は地上から20㎝と40㎝の高さに1本ずつ張るのが基本です。このとき、支柱の間隔は2～3mほどにします。電気柵に加えて、トタン板で視覚も遮断すると、侵入防止効果が高くなります。



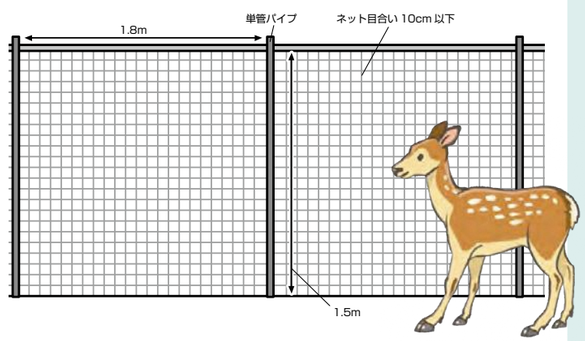
イノシシ用の電気柵は、地上から20・40cmの
2段張りが基本

食性 ほとんどの植物を食べる草食動物です。冬期には、秋に草刈りをした道路わきやあぜなどに芽吹いた緑草を好んで食べます。

行動 昼間は森林にいて、夜間、田畑に出没することが多く見られます。昼夜を問わず、2～3時間採食して、2～4時間反芻をするリズムをくり返しています。

特徴 警戒心が強い一方、図太さもあります。
嗅覚が発達していて、臭いで危険を察知します。1.6mを超えるほどのジャンプ力を持っています。ただし、かかとが丈夫ではないため、網などで傷つくことを嫌います。

対策 金網柵やネット柵などによって物理的にシカの侵入を防ぐことが最も効果的です。ジャンプ力があるため、柵の高さは1.5m以上にする必要があります。



シカ用の物理柵は1.5m以上の高さを確保
また金網、ネットの目合いは10×10cm以下に

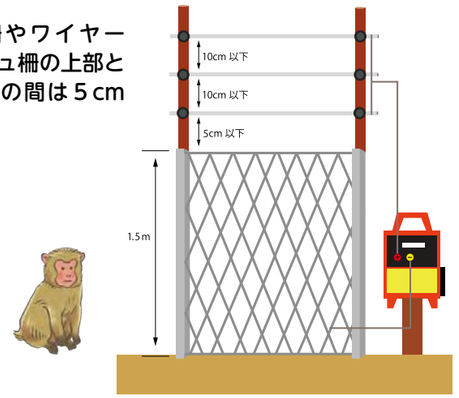
食性 植物食を中心とした雑食性で、果実や虫も好んで食べます。トウガラシ、シソ、ショウガ、ワラビなど、辛味や香り、アクの強い植物を避ける傾向が見られます。

行動 早朝と夕方が採食のピークで、日の出から日没までの明るい時間に行動し、夜間は活動しません。群れで行動し、決まった行動範囲の中で周期的に動きます。

特徴 群れで行動するため、数頭が柵越えしても他のサルが入れないと、その餌場はあきらめます。新しいものや状況、場所を警戒しますが、いったん慣れると大胆に行動します。“人慣れ”が進むと追い払うのは難しくなります。

対策 怖い目にあうことの多い場所は次第に避けるようになります。追い払いは、あきらめずに地域全体で力をあわせて根気よく進めることが必要です。
サルは柵を登ることができるため、金網柵の上部に電気柵を追加した複合柵が有効です。

金網柵やワイヤーメッシュ柵の上部と電気柵の間は5cm以下に



食性 農作物全般のほか、バッタ類やコガネムシなどの昆虫類をよく食べます。
ザリガニ、ヘビ、カエル、ネズミなどに加えて、動物の死体、生ゴミなども食べます。春は播種・発芽期のトウモロコシや直播水稲を狙います。

行動 人間の営みにつかず離れず生きてきたため、人間がすることをよく観察しています。

特徴 農業被害をもたらすカラスは、次の2種です。
ハシボソガラス：田畑など開けた環境を好み、くちばしが細い
ハシブトガラス：樹木の多い環境を好み、動物質のエサを比較的好む。額が盛り上がり、くちばしが太い

対策 意図しない餌付けをやめるため、生ゴミや野菜クズ、果樹などを放置しないようにしましょう。
カラスは畑を狙う際に見張り台のようなところにいったん止まって、安全かどうか確認してから侵入します。
そこで、侵入路をつぶすようにテグスを張る、畑の隅まで張るといった工夫も効果的です。

被害対策の考え方 カラスは警戒心が強いため、テグスなどの障害物による防除が有効です。一方、他の鳥類には効果が低いことから、侵入防止には防鳥網が最も確実です。ただし、作物や規模によっては費用がかかるため、被害額と対策費を比較し、複数の方法を組み合わせて効率的に対策することが重要です。